

授業科目	＊疾病学各論Ⅱ					実務家教員担当科目	○
単位	2	履修	必修	開講年次	2	開講時期	前期
担当教員	定永 敦司／目野 郁子						
授業概要	実務家教員として、総合病院に 20 年以上の勤務歴を持つ内科医、精神科医、小児科医が、自らの臨床経験を もとに、現在の医療現場で必要とされる疾病学の知識について解説します。 また、免疫・感染症の研究に 20 年以上携わった専門家が、感染疾患の知識について解説します。 疾病学各論は看護師の日常業務に直結する内容で、全ての看護科目の基盤となる非常に重要な授業で す。疾病に関する十分な知識がなければ、適切な看護を行うことはできません。 各領域の主な症候、検査手技、治療法、主要疾患の概念、疫学、症状、検査所見、治療、予後などに ついて解説するだけでなく、医療人としての心構えや命の大切さについて折に触れてお話しします。 疾病学各論Ⅱで解説するのは、内科領域（代謝疾患、肝胆膵疾患、腎臓・泌尿器疾患、内分泌疾患、膠 原病・アレルギー疾患、感染疾患）、精神科、小児科です。1 年次に習得した専門基礎領域の知識を活 用し学習しましょう。						
授業形態	対面授業			授業方法	自主学習支援のため、講義資料の一部を Classroom にアップします テーマを提示し、グループワークやディスカッ ションを行います		
学生が達成すべき行動目標							
標準的 レベル	主要な疾患に関する基本的な知識を身に付け、人に説明することができる。疾患に関する知識をもと に、看護をする際の注意点を説明することができる 1 各領域の主な症候、検査手技、治療法について説明できる 2 主要疾患の病態を説明できる 3 主要疾患の疫学、症状、検査所見、治療を説明できる 4 看護のポイントを説明できる						
理想的 レベル	1 疾病学の十分な知識をもとに、様々な疾患が関係しあう患者の病態を総合的に把握することができ る 2 適切な診断、治療、看護をシミュレーションすることができる						
評価方法・評価割合							
評価方法		評価割合（数値）			備考		
試験		70			期末試験は看護師国家試験の形式で行 います。		
小テスト							
レポート		15					
発表（口頭、プレゼンテーション）							
レポート外の提出物							
その他		15			授業貢献度		
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング							

第 15 回	テーマ：小児科疾患(1) (外部講師) 新生児領域の疾患と内科系疾患（遺伝性・内分泌・代謝系疾患）について解説する
第 16 回	テーマ：小児科疾患(2) (外部講師) 小児期にみられる内科系疾患（感染症疾患、アレルギー）について解説する
第 17 回	テーマ：小児科疾患(3) (外部講師) 小児期にみられる内科系疾患（腎・泌尿器系・消化器系疾患）について解説する
第 18 回	テーマ：小児科疾患(4) (外部講師) 小児期にみられる内科系疾患（循環器・神経疾患）について解説する
第 19 回	テーマ：小児科疾患(5) (外部講師) 小児期にみられる内科系疾患（血液・腫瘍系・免疫系疾患）について解説する
第 20 回	テーマ：小児科疾患(6) (外部講師) 小児期にみられる内科系疾患（精神系疾患）、運動器・感覚器系疾患および急病や事故など緊急時の対応について解説する
第 21 回	テーマ：内分泌疾患(2) (定永敦司) 副甲状腺疾患、副腎疾患について解説する *内分泌疾患の復習をする
第 22 回	テーマ：膠原病・アレルギー疾患(1) (定永敦司) アレルギー反応、膠原病一般、糖質コルチコイドについて解説する
第 23 回	テーマ：膠原病・アレルギー疾患(2) (定永敦司) 膠原病（関節リウマチや全身性エリテマトーデスなど）について解説する
第 24 回	テーマ：膠原病・アレルギー疾患(3) (定永敦司) その他の膠原病や前半の復習を行う
第 25 回	テーマ：1 年次の振り返り／肝臓・腎臓 (定永敦司) 1 年次の「看護形態機能学」で学習した内容と疾病学の知識を統合する 肝不全や腎不全について解説する
第 26 回	テーマ：1 年次の振り返り／循環器・呼吸器 (定永敦司) 1 年次の「看護形態機能学」で学習した内容と疾病学の知識を統合する 心不全や呼吸不全について解説する
第 27 回	テーマ：感染症(1) (目野郁子) 全身症状を起こす主なウイルス性疾患について解説する
第 28 回	テーマ：感染症(2) (目野郁子) 呼吸器感染症を起こす主な細菌・ウイルス性疾患について解説する
第 29 回	テーマ：感染症(3) (目野郁子) 消化器感染症・食中毒を起こす主な細菌・ウイルス性疾患について解説する

第30回	テーマ：1年次の振り返り／感染予防対策（目野郁子） 1年次の「感染と免疫」で学習した内容と感染症の知識を統合する 感染予防対策について解説する
テキスト	教科書：看護のための臨床病態学（改訂5版）、浅野嘉延・編、南山堂 ISBN978-4-525-50515-8 精神障害をもつ人の看護（第6版）、編著：岩崎弥生・渡邊博幸、メヂカルフレンド社 ISBN978-4-8392-3390-7 適宜プリントを配布します。小児科疾患や精神科疾患のプリント配布については担当教員（外部講師）から指示があります。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	小児臨床看護各論 医学書院 ISBN978-4-260-03866-9 精神看護学概論／精神保健（第6版） 編著：岩崎弥生・渡邊博幸、メヂカルフレンド社 ISBN978-4-8392-3389-1 なるほどなっとく！臨床検査 浅野嘉延・著 南山堂 ISBN978-4-525-21091-5 なるほどなっとく！内科学 浅野嘉延・著 南山堂 ISBN978-4-525-20723-6
課題に対するフィードバックの方法	試験は返却します
学生へのメッセージ・コメント	疾病に関する知識は全ての看護科目の基盤となり、卒業後は看護師の日常業務に不可欠です。看護師国家試験でも大きなウエイトを占めています。疾病学の系統講義は「疾病学各論Ⅰ」「疾病学各論Ⅱ」で最後となります。1年次の「形態機能学」「疾病学総論」の知識を整理してから授業に臨んでください。2年次の「薬理学」「看護のための臨床検査」とも関連します。疾病を多面的に捉えて理解するように心掛けてください。 講義は教科書と配布資料に沿って行いますので、該当する箇所を予習するとともに、講義後はしっかりと復習することが大切です。質問があったら Google classroom に投稿してください。日頃からジャーナルやインターネットなどで疾病や健康についての関心を高め、分らないことは教員に質問したり図書館で調べるなど積極的な姿勢を期待します。 この授業では、医療現場で勤務している臨床医に外部講師を依頼しています。仕事の都合などで、授業の順序が入れ替わることがあります。その場合は前もって通達します。